

## 1. 単元名 Rakugo Goes Overseas (New Crown English Series3, Lesson 3)

## 2. 教科・単元で提案する「やりくりのたとえば」

本単元では、広島原爆にまつわる情報を読んでいく。原爆投下当時と現在の広島の様子を読み、平和を希求する人々の活動について知り、平和の尊さを再認識させていく単元である。読解では、段階的に難易度を高めていき、ざっくりと概要をつかむことから、最終的には、物語の要約文をできごとの順に書くことまで発展させていくことを目標としている。

言語材料としては、call+A+B, make+A+Bの第5文型やIt～(for A) to…の形が新出表現として扱われる。それらがどんな場面で用いられ、英文がどのように表現されるかを反復練習(インプット)し、実際の場面を想定させながら構文の定着を図っていく。

新文型の用法を理解できていても、それらを使って瞬時に話したり、書いたりすることが難しいと感じる生徒は多い。本時は、チャンク(語彙のかたまり)に自分の知っている語を組み合わせる英文を作ることを基本として、その使用場面をイメージさせながら英文づくりに取り組ませる。英作文の指導にあたっては、鳥取大学地域学部の足立和美教授が提唱されているLARGE GRAMMARを利用した活動を授業の中に仕組んでいる。この活動では、既習の語彙や表現をやりくりしながら、与えられた3つのチャンクを用いてストーリーを作るという活動のゴールが明確である。チャンクを組み合わせることから段階的にレベルを上げて、創作を楽しみながら英文をふくらませていけること、時間を区切って活動させることで即興性が身につくことなどがこの手法の利点である。

本時の活動の目標は、『与えられた3つのチャンクを用いて、意味の通る物語(または会話)を制限時間内に作ること』である。生徒は、自分の知識の中にある語彙をどのくらい引き出して英文を作ることができるのか。そのためにどんな場面を設定し、どんな表現が適切であると判断し、使うのか。限られた時間の中で、語彙や表現を思い浮かべては、英文をふくらませていく生徒一人ひとりの思考の中は、教師が予想もできないほどのストーリーが展開される。指導にあたっては、英作文を段階的に指導するうえで、この最終ゴールの見通しを持たせながら、使える表現を意識させ、日ごろから語彙を増やすような基本的な活動も大切に指導に臨みたいと考えている。

## (1) 教師と教材

学習指導要領では、外国語科の目標は次のように設定されている。

3年生の言語活動の取扱いについて、

第2学年までの学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年や第2学年における学習内容を繰り返して指導し、定着を図るとともに、様々な考えや意見などの中からコミュニケーションが図れるような話題を取り上げること」としている。

一般的に、知っている単語が多ければ多いほど、表現できる幅は広がっていくはずである。だから、表現活動やコミュニケーションにおいて、語彙や表現の仕方を知り(インプットして)いつでも、使える、話せる(アウトプットできる)状態にしておくことは必要である。だから、帯学習や家庭学習で時間をかけて十分にインプット活動を行う。そして、その表現の使用場面を考えさせながら英文づくりに取り組んできた。

## (2) 子どもと教師

本学級には、英語を使うことを楽しみ、ペアで積極的に活動に取り組める生徒が多い。スピーチの活動では、準備した原稿を何度も音読練習し本番に臨む生徒や、好きな言葉のプレゼンテーションでは、他の友達が知らなかった言葉の由来を情報機器を使って分かりやすく説明する生徒もある。

本時の主活動である「物語を書く」ために、生徒は知っている単語や表現を駆使して、与えられたチャンクを用いながら、物語づくりのやりくりに挑む。時間内に、ものすごい文量を書き上げる生徒、短い文章だが、ストーリー性に富み、工夫の見られる生徒、植物や動物、食べ物の立場に立って、オリジナルな世界を描く生徒、生徒が作る物語は、様々である。作品を互いに見合う、聞きあう、鑑賞し合うことで、生徒たちが今後、チャンクとの出会いを通してそれに自分の考えを加えてどんどん表現することができるようになってくれたら指導者としてこの上ない喜びである。そんなことを期待しながら、チャンクを使った物語づくりに取り組ませたい。

## (3) 子どもと教材

本単元では、広島原爆や核兵器と平和の問題を取り扱っている。平和な社会と言われる日本であっても、その平和は永久に守られるのか、また世界へ目を向ければ、争いのある国もある。平和な社会は自分たちで作り、守っていかねばならないことを考えさせる大切な単元である。小学生で命を落とした佐々木禎子さんの人生と平和な日本の中で過ごしている自分との対比を通して、平和の尊さを考えさせたい。

指導にあたっては、チャンクを使った口答での英文づくりを通して、ペアで楽しみながら活動を進め、チャンクをヒントに即興で英文を表現できるようにする。物語づくりでは、ペアで物語を紹介しあったり、全体で共有したりすることで、自分にはない発想に触れ自分の表現をさらに増やしていくヒントにできることを期待している。本時で作上げた物語を、周りの友達に聞いてもらったり、読んでもらったりすることで、ストーリーを伝えあうことの楽しさを知り、現存する物語を読むことを楽しむだけでなく、自ら物語を想像することができるのだということを知り、生徒の視野を広げられたらと考えている。

### 4. 単元目標

- ・ make A B を含む文を使って、相手が何をすると幸せになるのか正しく尋ねたり、相手の質問に正しく答えたりすることができる。
- ・ it ... for ... to ... を使って、語と語のつながりやかたちに注意して勉強していて簡単なこと、難しいこと、楽しいことなどを相手に正しく伝えることができる。
- ・ it ... for ... to ... を含む英文を正しく書くことができる。
- ・ 佐々木禎子さんの物語について、概要や平和について大切な部分を正確に読み取る。

### 5. 学習計画 (全9時間)

- 第1時 make A B , call A B の用法の理解と表現活動 … 1時間
- 第2時 it... for... to... の文の用法の理解と表現活動 …1時間
- 第3時 Part 1 の内容理解 …1時間
- 第4時 Part 2 の内容理解 …1時間
- 第5時 チャンクを使った英作文 『物語を広げよう』 … 1時間 (本時)
- 第6時 USE Read の内容理解、… 2時間
- 第7時 USE Write 要約文を書こう … 1時間
- 第8時 Lesson 4 まとめ …1時間

### 6. 本時の学習について

#### (1) 本時の目標

- it... for... to... の表現を用いて、英語で正しく表現することができる。(表現の能力)
- チャンクに自分の知っている語彙や表現を加えて、英文を書くことができる。(表現の能力)

(2) 期待される生徒の様相

- A) 与えられたチャンクを利用して、自分の意見を加えてより良い英文を書くことができる。指定された3つのチャンクを用いて、英文を作り、それらを含んだ意味の通る物語（または会話）を作ることができる。
- B) 与えられたチャンクを利用して、意味の通る英文を書くことができる。指定された3つのチャンクを用いて、英文を作り、それらを含んだ意味の通る物語（または会話）を作ることができる。
- C) 与えられたチャンクを組み合わせ、英文を書くことができる。指定された3つのチャンクのうち、1つまたは2つを使って英文を作りそれらを含んだ物語（または会話）を作ることができる。

(3) 本時の展開

(○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ※ 評価 )

学習活動	教師の支援・意図・評価
<p>1. インプット活動 ・チャンク表の確認 (ペア)</p> <p>2. アウトプット活動① ・即興英作文 (ペア)</p> <p>3. アウトプット活動② ・英文を組み合わせる (個人)</p> <div data-bbox="161 801 572 943" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">一つのチャンクに、自分の知っている語を組み合わせて英文を作ろう</div> <p>4. アウトプット活動③ ・英文をふくらませる (個人)</p> <div data-bbox="161 1352 572 1447" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">3つのチャンクを使って、オリジナルの物語を作ろう</div> <p>5. 作文発表とシェアリング</p> <p>6. まとめ ・本時の活動の振り返り</p>	<p>○ チャンクを正しく覚えているかペアで確認をさせる。</p> <p>◇ チャンクに知っている語彙(表現)を加えて即興で英文を作る。 ◆ アイデアが浮かばない生徒には言葉が詰まった際に、用いるつなぎ言葉の働きを理解させ使うよう指示する。</p> <p>◇ チャンク表の語に自分のアイデアを加えてできる英文を即興で英文を書かせる。</p> <p>◆ 机間指導を行い、英文が多く作れていない生徒には考えやすいチャンクを提案する。</p> <p>○ ペアで英文を紹介し合い、表現を共有させる。次の活動への見通しを持たせ、物語づくりのヒントになるような表現を気に留めさせたい。</p> <p>※ it… for… to… の表現を用いて、英語で正しく表現することができるか (表現の能力)</p> <p>○ 英文を発表させ全体で共有し、物語づくりに生かせるように板書で示す。</p> <p>◇ 3つのチャンク <b>we can / it's important now and in the future</b> を提示し、それを用いて物語を作るように指示する。</p> <p>◆ ストーリーづくりができていない生徒には、会話形式にする・場面を設定するなど物語のイメージを与えて書かせるようにする。</p> <p>※ チャンクに自分の知っている語彙や表現を加えて、英文を書くことができるか。(表現の能力)</p> <p>○ 作った英文をお互いに読み合い、工夫が見える点について評価しあう。何点かをホワイトボードで紹介し、全体で作品の良さを共有させたい。</p> <p>◆ 友達の作品を積極的に見て、英文づくりのヒントをつかませたい。</p> <p>◇ 作品の良さを共有することで、生徒にプラスの評価を与え、今後の作文づくりの意欲につなげる。</p> <p>○ 自分の書いた英文の振り返りをする。本時の活動を振り返り、カードに記入させる。</p>